

平成 21 年 6 月 20 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：平成 18 年度～平成 20 年度

課題番号：18720040

研究課題名（和文） 宋代の三館秘閣の活動とそれに伴う美術作品の調査研究

研究課題名（英文） The Study of Imperial Collection and Archives from Song Period in China

研究代表者

塚本 磨充（TSUKAMOTO MAROMITSU）

財団法人 大和文華館 学芸部 学芸員

研究者番号：00416265

研究成果の概要：

本研究は北宋宮廷美術を、文物収蔵機関であった三館秘閣を中心に考察するものである。それらが、いかに生み出され、いかに価値付けられたのかを、文献と作品の両方から調査、研究した。その結果、宋代文物の具体的な制度と規範性の成立について、秘閣の活動と密接に関連していることが明らかになった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 年度	800,000	0	800,000
平成 19 年度	700,000	0	700,000
平成 20 年度	800,000	240,000	1040,000
総計			2540,000

研究分野：美学・美術史

科研費の分科・細目：

キーワード：中国絵画、三館秘閣、コレクション、宋、高麗、李成、郭熙

1. 研究開始当初の背景

従来の宋代絵画史研究は、その宮廷美術としての性格から、主に宮廷機構である「画院」をめぐる動向から説明されることが多かった。宋代はその後の伝統中国社会において、古典ともなる規範性を有する。それは造形作品自体の持つ魅力であるとともに、作品が文物として宋朝全体の礼の制度のなかに位置づけられていくことと、決して無関係ではない。本研究では、三館秘閣とよばれる文物の収蔵・公開機構の分析をおこなうことで、宋代美術の創作の背景を問うとともに、作品が

実際に価値付けられていた、文物制度の全体の意味を探る。そのことで、さらに一步踏み込んで宋代の美術作品を考察することを目標とした。

2. 研究の目的

（1）本研究では、「三館秘閣」「六閣」とよばれる、宋朝の文化政策全体を取り仕切った官庁の動向が、その美術品制作や、高麗・日本の文化政策にどのような影響を与えたのかを検証することを目的とする。

（2）あわせて作品の質の問題、つまり表現

形式の問題を同時に議論する。作品を扱う場合、その美的質を問うことは、美術史学者の不変的責務である。申請者は、個々の作品の緻密な様式分析から出発し、その結論は文献的から得られる結論に先行すると考える。例えば、「瑞鶴図巻」(遼寧省博物館)や「五色鸚鵡図巻」(ボストン美術館)、高宗「徽宗文集序」(文化庁)など、材質、表現ともに高い質をもった皇帝の書法が、具体的な宮廷の美術制作と鑑賞の場の分析に、つながることも予想できる。一方、本来は宮廷壁画をかざるものとしてその地位を確立した郭熙系の山水画から「夏秋冬山水図」(金地院・久遠寺蔵)などの詩情を重視した山水画の表現形式の展開、または、「文姫帰漢図」(ボストン美術館)や馬遠「清涼法眼禅師像・雲門大師像」(天龍寺蔵)など、北宋とは明らかに表現を異にする南宋人物画が、宮廷で需要された背景も、これらの点から解明できるのではないかと考えている。

3. 研究の方法

(1) 文献的調査

現在、宋代の文物制度および三館秘閣の活動を把握するために、精確な年表を作成中である。その過程で、申請者は今までの美術史と歴史学の狭間において活用されていなかった史料が多数あることに気がついた。三館秘閣は国家の中枢に関わる機関のため、その関連史料は画史画論以外の文献に広く偏在している。上述の宋代研究の基本文献以外に、宋代の筆記史料および、詩文集などに所収される史料群は、美術史学と歴史学の狭間にあって十分にその価値が認識されてこなかったものである。当時「一時の名流」といわれた館職は、士大夫たちの出世にとって必要不可欠な出世コースであり、三館秘閣に関する記事が、画史画論以外のさまざまな史料に散

在しているのも当然のことであろう。これらの史料は、漠然と画論的に読まれてきた画史の、正確な背景を補強し、今後宋代美術を考察するのに必要不可欠なものになると予想される。そのため、『東都事略』、『高麗史』、『唐宋元史料筆記』、『麒麟故事』や『南宋館閣録 続録』を精読し、『続資治通鑑長編』、『東都事略』、『全宋筆記』、『建炎以来繫年要録』、『玉海』、『宋会要』等について、詳しく調査した。

(2) 以下の項目にわけて作品を調査する。

- ① 三館秘閣に直接かかわる出版、皇帝文物関連作品の調査
- ② 宋代宮廷絵画の包括的調査
- ③ 北宋・李郭系の中国絵画および朝鮮絵画等の調査

4. 研究成果

(1) 作品の調査

① 2006 年度：台北故宮博物院で、北宋書画の大規模な展覧会があり、北宋画の優品を実見した。また同展覧会にあわせて行われるシンポジウムに出席した。あわせて国内での作品調査を行い、新たな知見を得た。

[主な観覧作品]

范寛「谿山行旅図」(台北・国立故宮博物院)
郭熙「早春図」(台北・国立故宮博物院)
「景德四図」(台北・国立故宮博物院)など

② 2007 年度：アメリカの美術館所蔵の中国、朝鮮絵画の調査を行った。ボストン美術館、メトロポリタン美術館、プリンストン大学美術館、フリーア・ギャラリーで調査を行った。あわせて国内での作品調査を行い、新たな知見を得た。

[主な調査作品]

戴進「春秋山水図」(菊屋家保存会)
「瀟湘八景図屏風」(九州国立博物館)
「胡笳十八拍図」(ボストン美術館)

「胡笳十八拍図」(メトロポリタン美術館)
李公年「山水図」(プリンストン大学美術館)
「五百羅漢図」(フリア美術館)など

③2008年度:アメリカの美術館所蔵の中国、
朝鮮絵画の調査を行った。フリア・ギャラリー、
メトロポリタン美術館、プリンストン大学美術館、
ネルソン・アトキンス美術館、クリーブランド美術館、
等で調査を行った。あわせて国内での作品調査を行い、
新たな知見を得た。

[主な調査作品]

李成「喬松平遠図」(澄懷堂美術館)

燕文貴「江山樓觀図」(大阪市立美術館)

李公麟「孝経図巻」、屈鼎「夏山図巻」(メトロポリタン美術館)

江参「林巒積翠図」、馬遠「西園雅集図巻」、
「瀘南平夷図」(ネルソン美術館)

「谿山無尽図巻」、米友仁「雲山図巻」(クリーブランド美術館)など

(2)その結果として、以下の論考を発表した。

①海外との文物交換(『大和文華』115号)

三館秘閣六閣は宋朝の権威を国内外に示すためにその収蔵文物を、皇帝が近臣とともに鑑賞する空間である。その中でも重要な展示物になったのが海外からの方物であった。その具体的な作品として、様式的にも10世紀日本人の書法作品と認められる董其昌『戲鴻堂帖』所収の「海外書」を取り上げ、当時の北宋美術鑑賞界における尚古気風から、三館秘閣の東アジアにおける文物交換の意味を論述した。

②皇帝の文物(『美術史論集』第7号)

東福寺には「太白名山碑」はじめ宋皇帝の御書碑拓が多数伝来している。これらは宋代に於いては、宮廷を中心に下賜され、また皇帝崩御後は三館秘閣六閣を中心に再収集された。宋代にはこのような皇帝御書が、下賜・収蔵・献上を通じて社会を循環していく

機能を有することを指摘した。

③文物制度と近代社会(『LOTUS』No.27)

美術史学は作品を扱う学問であるが、同時にその作品は「文物」としての歴史的、民族的、国家的意味を有している。日本国内におけるその成立については多くの成果があるが、中国近代におけるそれは看過されがちであった。1937年の南京における中国芸術史学会を機に、中国の伝統的な分類である文物が、変化し、同時に新しい人間像(美術史家)を生み出す過程を考察した。これは宋代の文物制度を考えるための基礎的な作業である。

④郭熙画山水の成立とその意義(『崇高なる山水—中国・朝鮮、李郭系山水画の系譜—展』図録)

北宋の宮廷画家・郭熙による大画面山水の意義について、北宋が建国以来構築してきた三館秘閣を中心とする宮廷コレクションにおける文化的総合と再生産との関連を指摘した。このような北宋の新しい国家を代表した郭熙の山水は、高麗にも下賜されて新たな意味を獲得していく。また郭熙山水は李郭派として北宋を代表する画系として伝承され、千年以上の命脈を保っていくことを、『崇高なる山水—中国・朝鮮、李郭系山水画の系譜—展』(大和文華館、2008年10月11日~11月16日)、及び同展カタログ解説において示すことが出来た。これらは北宋の三館秘閣を中心とした文化活動の所産と言えよう。

⑤高麗宮廷コレクションの成立(『あじあ遊学』120)

北宋と密接な関連を持つ高麗宮廷のコレクション活動に対しても考察を加え、特に11-12世紀初頭の宮廷コレクション活動に北宋宮廷の直摸とも言えるほどの密接な関連を認めることが出来た。これらは同時代の日本宮廷と比較するとき、その性格が特筆されると言え、今後東アジア美術史、特に美術交

流史を考察する上で基礎的な知見を得ることが出来た。

これらの成果は、より包括的な形で、「宋代三館秘閣の機能與文物交流」『日本宋代史研究者論文集 V』河南大学出版社、2009年、(近刊予定)として発表される予定である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計8件)

- ①塚本鷹充「高麗・朝鮮時代初期の宮廷コレクション」(『アジア遊学』120、勉誠出版、16-27頁、2009年、無)
- ②塚本鷹充「崇高的山水 大和文華館[中國、朝鮮、李郭山水系譜]特展」(『典藏 古美術』No.184、64-69頁、2008年、無)
- ③塚本鷹充「崇高なる山水・郭熙山水の成立とその意義—北宋三館秘閣の文化的機能を中心として—」(『崇高なる山水—中国・朝鮮、李郭系山水画の系譜—』展図録、大和文華館、123-134頁、2008年、無)
- ④塚本鷹充「東洋古典主義之誕生—大和文華館[宋元與高麗美術展]—」(『典藏 古美術』No.184、64-69頁、2008年、無)
- ⑤塚本鷹充「滕固と矢代幸雄—ロンドン中国芸術国際展覧会(一九三五—三六)と中国芸術史学会(一九三七)の成立まで—」(『LOTUS』No.27、日本フェノロサ学会、1-18頁、2007年、無)
- ⑥塚本鷹充「古物がつくる社会:中華の宝、台湾の誇り: 国立故宮博物院八〇周年「大観—北宋書画、汝窯、宋版図書特展」參觀記」(『LOTUS』No.27、日本フェノロサ学会、38-41頁、2007年、無)
- ⑦塚本鷹充「宋代皇帝御書の機能と社会—孝宗「太白名山碑」(東福寺蔵)をめぐって—」(『美術史論集』第7号、神戸大学美術史研究会、10-30頁、2007年、有)

- ⑧塚本鷹充「『海外書』小論—北宋三館秘閣の文物収集の史的意義と、美術外交についての一考察—」(『大和文華』115号、大和文華館、25-40頁、2006年、無)

[学会発表] (計4件)

- ①塚本鷹充「北宋繪畫與日本早期繪畫」、2008年12月10日、国立台湾大学芸術史研究所
- ②塚本鷹充「宋代三館秘閣の機能と文物交流」東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を中心とする学際的創生—文献資料研究部門シンポジウム、2007年11月23日、大阪大学
- ③塚本鷹充「滕固と矢代幸雄—起点としてのロンドン中国芸術国際展覧会(1935-6)と南京・中国芸術史学会(1937)の成立—」日本フェノロサ学会、2006年9月16日、関西大学
- ④塚本鷹充「聖—国師円爾の請来世界—孝宗『太白名山』碑・馬遠「禅宗祖師図幅」と円爾のみた南宋禅宗—」神戸大学美術史研究会、2006年2月17日、神戸大学

[図書] (計1件)

- ①大和文華館編(共著)『崇高なる山水—中国・朝鮮、李郭系山水画の系譜—』展図録、2008年、(123-184頁)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塚本 鷹充(TSUKAMOTO MAROMITSU)
財団法人 大和文華館 学芸部 学芸員
研究者番号:00416265

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし